

令和6年度 年間授業計画

第3学年

橋高等学校定時制 令和6年度 教科 国語 科目 国語表現 年間授業計画

教科 : 国語 科目 : 国語表現 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (国語表現 大修館書店)

使用教材 : (自作プリント)

科目 国語表現 の目標 : 自己の進路目標を考えに入れつつ、進路を実現する実践的国語力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
主体的・対話的で深い学びを通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		論理的に考える力、他者に共感する力、想像する力を伸ばし、言葉で伝えあう力を高める。		現代社会における多様な話題・題材に対して興味を持ち、言語活動を通して、主体的に学習する態度を身に付ける。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1学期 ○「言葉と出会う」の教材を通して、文章表現の具体的な在り方について、学習する。 ○「伝える、伝え合う」の教材を通して、正確な文章表現について学習する。	○具体的な文章表現に迫って学ぶ。 ○正確に伝達する文章表現を学ぶ。	【知】漢字を適切に読み書きできる。 【思】自己の思考内容を適切に文章化できる。 【態】適切な日本語を用いて、自己の思考を表現する。	○	○	○	24	
2学期 ○「小論文・レポート入門」の教材を通して、社会的な問題について文章としてまとめる。 ○「自己PRと面接」の教材を通して、社会生活に必要な表現力を学習する。	○社会的な問題について、自己の考え方を論理的に表現する。 ○自己表現力を身に付ける。	【知】文章表現において、漢字を適切に使用できる。 【思】現在の社会的な問題について、適切に文章として表現できる。 【態】自己の思考内容を論理的に表現する。	○	○	○	28	
3学期 ○「表現を楽しむ」の教材を通して、今まで培ってきた国語力を用いて、実践的な文章表現を試みる。	○問題演習を通して、自己の国語力の向上を図る。	【知】「表現を楽しむ」の教材を読解し、それについて適切に文章表現できる。 【思】文章から読み取れる社会的な課題について、自己の意見を論理的に表現する。 【態】文章読解に積極的に取り組む。	○	○	○	18	
配 当 合 計 時 間						70	

橋高等学校定時制 令和6年度 教科 地理歴史 科目 地理総合 年間授業計画

教科 科 : 地理歴史 科目 : 地理総合 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第3 学年 1 組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (高校生の地理総合 帝国書院)

使用教材 : (自作プリント)

科目 地理総合 の目標 : 世界各地の生活文化や多様性、自然環境や社会環境について学び、グローバルな視点から地球的課題をとらえ、課題解決の方法を考える。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
近世界各地の生活文化や多様性、自然環境や社会環境について学び、地球的課題につながる地理的要因を理解している。		世界各地の生活文化、自然環境や社会環境について資料からとらえ、地域の多様性について考える。		世界各地の生活文化や多様性、自然環境や社会環境について学ぶことで、よりよい社会を実現しようと取り組んでいる。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1 学期 ○地球上における絶対的位置と相対的位置の表し方について理解する。 ○時差が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、とらえる。 ○目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究する。	地図や地理情報システムと現代社会 ○地球上の位置と地上の現象 ○経度の違いと時差 ○地図の種類 ○地理情報システムの利用	【知】地球上における絶対的位置と相対的位置の表し方について理解している。 【思】時差が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて分析している。 【態】目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究している。	○	○	○	24	
2 学期 ○宗教が人々の暮らしに根づき、影響を与えていることについて理解する。 ○経済発展がそれぞれの地域で人々の生活をどのように変化させたのかについて、考える。 ○地域統合の結果、異なる生活文化や新たな価値観が共存する社会を形成する重要性が高まったことについて、課題を見いだす。	生活文化の多様性と国際理解 ○経済発展による生活文化の変化 ○宗教と生活文化の関わり ○伝統の継承と生活文化の関わり ○産業技術の発展と生活文化の関わり	【知】宗教が人々の暮らしに根づき、影響を与えていることについて理解している。 【思】経済発展がそれぞれの地域で人々の生活をどのように変化させたのかについて、考えている。 【態】地域統合の結果、異なる生活文化や新たな価値観が共存する社会を形成する重要性が高まったことについて、課題を見いだしている。	○	○	○	28	
3 学期 ○世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解する。 ○東日本大震災や阪神・淡路大震災による被害に着目しながら、地震によってどのような被害が生じるのかについてとらえる。 ○人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について、主体的に追究し、課題を見いだす。	自然環境と防災 ○日本の自然環境 ○災害と防災 ○気象災害と防災	【知】世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。 【思】東日本大震災や阪神・淡路大震災による被害に着目しながら、地震によってどのような被害が生じるのかについて分析する。 【態】人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○	○	○	18	
配 当 合 計 時 間						70	

橋高等学校定時制 令和6年度 教科 地理歴史 科目 歴史総合 年間授業計画

教科 : 地理歴史 科目 : 歴史総合 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第3 学年 1 組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (わたしたちの歴史 日本から世界へ 山川出版)

使用教材 : (自作プリント)

科目 歴史総合 の目標 : 近代・現代の世界の変化と日本の関わりについて学び、現在の世界が抱える課題を解決しようとする力を身につける。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
近現代の歴史の変化に関わる諸事象についてとらえ、現代の諸課題につながる近現代の歴史を理解している。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や特色などを、現代にどのようにつながるか考えている。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について学ぶことで、よりよい社会を実現しようと取り組んでいる。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	○イギリスの産業革命が起きた経緯や発明された道具の進歩について理解する。 ○欧米諸国の植民地拡大がアジアや日本の開国につながったことをとらえる。 ○各国の近代化について学び、帝国主義の流れがどのように世界大戦につながるか考える。	近代化と私たち ○産業革命 ○日本の開国と国際情勢 ○市民革命と国民統合 ○帝国主義	【知】産業革命前と後で、ものづくりがどのように変化したか、またそれが社会に与えた影響を理解している。 【思】東南アジア諸国や中国が植民地化されていく流れを日本の近代化と比較して違いを考えている。 【態】第一次世界大戦の対立を分析し、現代の紛争や対立の解決方法を考えようとしている。	○	○	○	24
2 学期	○第一次世界大戦のきっかけとなる事件と世界情勢を理解する。 ○第一次世界大戦の特徴とその影響を資料からとらえる。 ○第一次世界大戦後の国際連盟の成立の経緯を理解する。 ○世界恐慌からファシズムの台頭や第二次世界大戦を引き起こしていく要因とその問題について考える。	国際秩序の変化 ○第一次世界大戦 ○ロシア革命とその影響 ○国際協調体制 ○世界恐慌 ○第二次世界大戦	【知】第二次世界大戦につながる対立構造や国際連盟が抱えていた課題について理解している。 【思】独裁主義的な政治体制の問題点や第二次世界大戦を引き起こす要因について自分の考えをまとめている。 【態】世界恐慌への各国の対策など、現代の経済の課題と結び付け、解決に導く方法を意欲的に追及している。	○	○	○	28
3 学期	○戦争の終結の経緯についてとらえ、原爆投下と日本の敗戦の経過について理解する。 ○太平洋戦争が勃発する流れをとらえる。 ○第二次世界大戦後の国際秩序の成立と現在につながる課題について考える。	国際秩序の変化 ○第二次世界大戦と日本 ○第二次世界大戦の終結 ○戦後国際秩序 ○冷戦の始まり	【知】太平洋戦争を引き起こした要因や日本に原爆が投下された経緯を理解している。 【思】国際連合の成立と世界の安全保障体制の課題について、自分の考えをまとめようとしている。 【態】戦時下の人々の暮らしや生き方について自分の生活と比較して考えようとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和6年度 教科理科 科目 物理基礎 年間授業計画

教科 : 理科 科目 : 物理基礎 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組

教科担当者 : ()

使用教科書 : (新編物理基礎 東京書籍)

使用教材 : 自作プリント

科目 物理基礎の目標 : 物体の運動・エネルギー・波動・電気について理解すると共に、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
基本的な物理量の意味と測定方法、観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		物理的な問題を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。仮説をたてて観察、実験などを行い、結果について科学的に考察し表現している。		各單元における物理現象に対して、主体的に取り組む姿勢があり、疑問をもって積極的に観察・実験を行おうとして、科学的に探究しようとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1学期 1章 直線運動の世界 【知】運動の表し方を理解する。物理量の測定と扱い方、直線運動の加速度について理解する 【思】運動を変える原因は何かを理解する 【知】物体に働く力の図示を正確に表現できる 【態】各單元において観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に考察し表現する態度を養う。	・速さ ・速度 ・等速直線運動 ・合成速度と相対速度 ・等加速度運動 ・自由落下 ・鉛直投射 ・力とは ・力の合成と分解 ・作用反作用の法則 ・慣性の法則 ・運動の法則	【知】運動の表し方や、物理量の測定と扱い方、直線運動の加速度について理解している。 【思】運動を変える原因が力であることを知り、加速度運動をもたらすことを理解している。 【知】物体に働く力の図示を正確に表現でき、力は単独では存在しないことも理解している 【態】各單元においての発問・ワークシート・実験に積極的に取り組む態度や問題や結果について自力で考える力、友人と話し合っ解決する姿勢がある。 【知】【思】 小テストや考查点も考慮する	○	○	○	24	
2学期 2章 力学的エネルギー 【知】物理における仕事、仕事の原理を理解する 【思】運動の過程で力学的エネルギーの保存について理解する。 2編 1章 熱 【知】熱と温度、熱量について理解する。 【思】比熱について理解している 2章 波 【知】波の性質、音と振動について理解する 【態】各單元において問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する態度を養う。	・仕事とエネルギー ・仕事率 ・力学的エネルギー保存 ・熱と温度 ・物質の三態 ・熱効率と不可逆変化 ・波の伝わり方と重ね合わせ ・定在波 ・音の伝わり方 ・固有振動	【知】仕事とエネルギーの関係、仕事の原理について理解している。 【思】力学的エネルギー保存の法則を用いて、運動の状態を考えることができる。 【知】熱と温度の違いがわかり、熱がエネルギーであることを理解している。 【思】物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるか考察し、表現できる。 【知】波は振動であることを理解し、波源や媒質について理解している。音の3要素、空気中での音の速さについて理解している。 【態】力学的エネルギー保存・熱量・波の実験にきちんと取り組み、結果を科学的に分析、考察して深く考えようとしている。 【知】【思】 小テストや考查点も考慮する	○	○	○	29	
3学期 1章 電気 【知】静電気の性質、電流と電圧の考え方を理解している。 【思】物体の帯電のしくみを理解している 【態】各單元において問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する態度を養う。	・静電気の性質 ・静電気から動電気へ ・電流と電気抵抗 ・電流が作る磁場	【知】静電気の性質、オームの法則について理解している。 【思】目に見えない電子の動きを説明できる。オームの法則を説明できる 【態】静電気の性質、電流回路の実験にきちんと取り組み、結果を科学的に分析、考察して深く考えようとしている。 【知】【思】 小テストや考查点も考慮する	○	○	○	17	
配 当 合 計 時 間						70	

備考 : 3学期の指導項目は、生徒の理解しやすいところに重点をおいた時間配分を行う

橋高等学校定時制 令和6年度 教科 保健体育 科目 体育 年間授業計画

教科 : 保健体育 科目 : 体育 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (現代高等保健体育 大修館書店)

使用教材 : (なし)

科目 体育 の目標 : 生涯にわたって心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを送れる資質と能力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。		・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		・生涯にわたって継続して運動に親しむため、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするとともに、健康・安全を確保している。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	・柔軟運動、体幹トレーニングを行い、柔軟性向上・体幹を強化する(体づくり運動)。 ・自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦をたて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク、サーブなどの安定したボールの操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(卓球)。	・体づくり運動 ・卓球 ・体力テスト測定	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 ・自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦をたてることのできる(卓球)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	1 19 6
2 学期	・卓球は上記と同様。 ・自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立て、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやトス、アタックなどのボール操作と攻守などのチームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(バレーボール)。 ・状況に応じたパスやシュートなどのボール操作と攻守などのチームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(フットサル)。	・卓球 シングルス及びダブルス ・バレーボール ・フットサル	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 ・状況に応じたパスやシュートなどのボール操作と攻守など、チームメイトと連携した動きをすることができる(フットサル)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	6 12 12
3 学期	・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解することができるようにする(体育理論)。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図る(体づくり運動)。	・体育理論 ・体づくり運動	【知】体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書きだしたりしている。 ・健康の保持増進や体力の向上を図る運動を無理なく行うことができる(体づくり運動)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに体づくり運動を楽しむための調整の仕方を身につけている。 【態】体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	7 7
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和6年度 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ 年間授業計画

教科 科 : 芸術 科目 ; 音楽Ⅰ 単位数 : 2単位
 対象学年組 : 第3学年 1組
 教科担当者名 : ()
 使用教科書 : (音楽之友社 ON!1)
 使用教材 : (各楽器)

科目 音楽Ⅰ の目標 :

- ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見出せる感性を養う。
- ・音や音楽を知覚・感受して、思考判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- ・音や音楽と生活や社会との関りについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。
- ・文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、わが国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
【歌唱・器楽・鑑賞】 ・曲想と歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉（歌詞）の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、表している。・曲想や表現上の効果と音楽構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【創作】 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身につけ、創作で表している。		【歌唱・器楽・鑑賞・創作】 ・音色、リズム、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図をもってしている。 ・音色、リズム、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		【歌唱・器楽・鑑賞・創作】 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	【歌唱】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解を深め、歌唱に対する意識をもち、発声の基本や視唱（読譜）の力を育みながら、楽曲に合った歌唱法の工夫をする。	・呼吸や口の形など発声の基本を学習する。 ・歌うことの楽しさを感じる。 ・楽譜を見て歌う力（視唱・読譜）を養う。	【知】 ・曲想と歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉（歌詞）の発音などの技能を身につけている。 【思】 旋律や声の音色を理解して、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもってしている。 【態】 曲にふさわしい発声に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	【日本の心】 長唄の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、我が国の伝統的な音楽に親しむ心情を養う。	・長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・歌舞伎について学習する。 ・西洋音楽との共通点や違いについて考える。 ・三味線の基本的な奏法を学習する。	【知・技】長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 【思】 音色やテクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【態】 日本の伝統的な音楽に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	【ヨーロッパの歌】 イタリア語の発音の特徴をとらえて、リズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解し、歌う。	イタリア語の発音の特徴を理解する。 ・楽曲にあるリズム、旋律、ハーモニーの関わりを理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	【知・技】 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉の特徴をとらえた発音などの技能を身につけている。 【思】 旋律や言葉（歌詞）と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもってしている。 【態】 イタリア古典歌曲に関心を持ち、楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	7
2 学期	【ヨーロッパの歌】 ドイツ語の発音の特徴（子音、ウムラウトなど）、言葉のリズムと旋律との関わりを理解し、表現の工夫をして歌う。	・ドイツ語の発音の特徴を理解する。 ・ドイツ語の言葉（歌詞）のリズムとメロディーの関わりを理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	【知・技】 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、言葉（歌詞）の特徴をとらえ、楽曲に応じた発音などの技能を身につけている。 【思】 言葉（歌詞）のリズムと旋律の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもってしている。 【態】 ドイツ歌曲に関心を持ち、それぞれの楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4

	<p>【ミュージカル】</p> <p>【目標】舞台作品としてのミュージカル（映画）の物語の内容、それぞれのナンバーを歌う登場人物の心情、曲想と歌詞の関わりを理解して、表現の工夫をして歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。 リズムと旋律の関わり理解し、互いに歌い、曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの作品の楽曲（ナンバー）の特徴や作品の時代背景（文化）、舞台作品としての表現方法を理解している。 それぞれの楽曲（ナンバー）についてふさわしい発声を身につけている。 <p>【思】リズムと旋律の関係を知覚して、それらの働きを感じ、音楽の美しさや特徴をとらえて、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【態】物語や登場人物、それぞれのナンバーに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>【器楽・創作】</p> <p>鍵盤楽器（ピアノ、キーボード）に興味を持ち、音階や和音（コード）の学習から、和音進行（コード進行）から旋律をつくる活動、音階から旋律をつくる活動に進み、自ら鍵盤楽器で弾いて表現の工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 楽典の初歩として音階と和音（キーボードコード表）を鍵盤楽器を併用して学習する。 単旋律教材（ぐるぐるピアノ）から鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもたせる。 片手三重奏（ディズニー・ア・ラ・カルト）から3人でのアンサンブルで鍵盤楽器での合奏を楽しむ。 鍵盤楽器に慣れたのち、コード表から簡単な和音（コード）を弾けるようにする。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音階（音の並び）や和音（音の重なり）を弾いたときの響きや、音型の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身につけている。 <p>【思】音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの働きを感じ、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【態】鍵盤楽器の演奏や、独奏やアンサンブルの演奏をすることに興味を持ち、主体的・協働的に創作活動や器楽の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	14
	<p>【世界の心】</p> <p>アジア地域の様々な音楽の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、諸外国の音楽に親しむ心情を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガムランなどアジア地域の音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 それぞれの音楽の共通点や違いについて考える。 社会にとっての音楽の意味や価値について考える。 	<p>【知・技】アジア地域の様々な音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。</p> <p>【思】音色やリズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>【態】アジア地域の様々な音楽に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	6
3 学 期	<p>【器楽】</p> <p>ギターに興味を持ち、音階や和音（コード、ダイアグラム）の学習から、自らで弾いて表現の工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 楽典の初歩として音階と簡単なコード、ダイアグラムを学習する。 単旋律教材と器楽アンサンブルに親しみをもち、ギターを弾くことに興味をもつ。 コード表から（ダイアグラムを使用せずに）簡単な和音（コード）を弾けるようにする。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想とギターの基本的な奏法との関わりについて理解している。 楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけている。 <p>【思】音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【態】ギターの独奏やアンサンブルの演奏をすることに興味を持ち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>【歌唱・創作】</p> <p>それぞれの奏者の演奏する役割をもって、互いにリズムや声の響きを感じ取りながら、ヴォイスアンサンブルを楽しみ、表現の工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜から正確なリズムを読み取り（読譜）、声を発して表現をする。 それぞれの役割（パートごとのリズム、言葉など）を果たし、互いに聴き合いながら、リズムの関係や声の響きの調和を作り出す。 楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出すようにする。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想と楽曲の構造（声で表現するリズムアンサンブル）との関わりについて理解している。 楽曲にふさわしい発声などの技能を身につけている。 <p>【思】互いに声の響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【態】声でのアンサンブルの演奏をすることに興味を持ち、主体的・協働的にリズムの創作活動や自らの声での演奏活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	7
配 当 合 計 時 間							70

橋高等学校定時制 令和6年度 教科 芸術 科目 美術 I 年間授業計画

教科 : 芸術 科目 : 美術 I 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第3 学年 1 組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (美術 I 光村図書出版)

使用教材 : (な し)

科目 書道 I の目標 : 美術の幅広い創造活動を通して美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
美術に関する幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、表すことができる。		美術の幅広い表現活動を通して発想や構想に関する資質と能力を身に付けるとともに、鑑賞に関する思考力、判断力を身に付ける。		美術の幅広い内容について興味、関心を持ち、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組むことができる。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期 ・美術の内容について理解し、テーマ別に作品の鑑賞を通して作者の心情や作品の多様な表現について関心を持つことができる。 ・鉛筆デッサンの用具や表現方法を理解し、一連の制作活動を通して鉛筆デッサンの基本的な表現方法を身に付ける。 ・色の性質及び色の効果について理解し、アクリル絵具特性を生かした混色方法と着彩方法を身に付ける。	・教科書の内容と鑑賞 ・鉛筆で描く グラデーション 基本形態 自分の手 人物クロッキー ・色の三属性、色の対比と同化 色の混色、色の効果 混色演習	【知】美術の各単元の内容について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を工夫し、あらわすことができる。 【思】美術の内容やデッサンの基本及び色の特徴について考察しようとしている。 ・デッサン、色彩の制作に関する手順や表現方法、表現効果を考察し工夫しようとしている。 【学】美術の表現活動や鑑賞に興味関心を持ち主体的に表現の創造活動に取り組もうとしている。	○	○	○	24	
2 学期 ・暮らしの中で見られる文様のデザインに興味を持ち、リピテーションの手法を工夫して独創的な文様のデザインを制作することができる。 ・自己をあらわした作品を鑑賞し、主題をもとに作品形態や表現方法などの構想を練り、創造的な表現をあらわすことができる。6	・文様のデザイン 世界の地域の文様のデザインリピテーションの構成手法について幾何学文様の画面構成、配色技法と配色計画、混色方法と着彩 ・自己をあらわす 自分自身を見つめて主題を探す。 表現方法と表現材料を検討する。	【知】美術の各単元の内容について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を工夫し、あらわすことができる。 【思】文様のデザイン及び自己をあらわす表現活動に関心を持ち、それらの表現方法や表現効果を考察し、工夫しようとしている。 【学】美術の表現活動や鑑賞に興味・関心を持ち、主体的に表現の想像活動に取り組もうとしている。	○	○	○	28	
3 学期 ・相手にメッセージを伝えるためのポスター作例を鑑賞し、社会や身近にあるニュースや問題に目を向けて、人々に伝えるポスターを計画的にデザインすることができる。	・メッセージを伝える 公共ポスター制作 テーマと主題の生成 主題について調査 コピーと図柄のアイデアスケッチ レイアウトと配色計画 本制作	【知】ポスターデザインについて理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し計画的にあらわすことができる。 【思】ポスターデザインの表現活動に関心を持ち、効果的な表現方法や表現効果について考え、想像的な表現の構想を練っている。 【学】ポスターデザインのねらいや表現形態に興味・関心を持ち、主体的に表現の想像活動に取り組もうとしている。	○	○	○	18	
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和6年度 教科 芸術 科目 書道 I 年間授業計画

教科 : 芸術 科目 : 書道 I 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第3 学年 1 組

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (光村図書 書道 I)

使用教材 : (書道用具)

科目 書道 I の目標 : 芸術に親しむ心を養い感性を豊かにし、書の良さや美しさを感じ取り、情操を豊かにする。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
感性を豊かにし、所を愛好し書の良さや美しさを感じ取り創造的な表現を工夫し、書写能力を高め、意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。		書の効用や表現を幅広く理解し、自己を主体的に表現するために、基本的な技能を身に付けていく。		書が生活の中で果たしている役割、署の文化や伝統を幅広く理解し、実用的な表現や芸術的な表現の基本的な技能を身に付けていく。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関りについて理解している。	硬筆『学校』 筆順テスト 自分の名前	【知】漢字に興味を持ち、その成り立ち、筆順・部首・部首名の知識を身に付けている。 【思】漢字の象形を考え、意味・内容を考えている。 【学】漢字の成り立ちに興味を持ち、自分の名前の成り立ちを主体的に調べ、意味を理解していく。	○	○	○	25
	・書を構成する要素についてそれらの祖語の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。	楷書体基本用筆 『三川』『人口』『元水』『日月』 硬筆 文部科学省3級検定過去問題	【知】表現技法の基礎・基本を身に付け、書写能力の向上に努めている。 【思】自らの感性や自発的な意図に基づいて、字形・全体の構成の工夫に取り組んでいる。 【学】漢字の書の意欲的な表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構成から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。	○	○	○	
2 学期	・書体や書風と用筆との関りについて理解している。	臨書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉名 雁塔聖教序	【知】漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構成を工夫している。 【思】漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形・全体の構成を工夫している。 【学】自己の表現のねらいを達成する為に、古典の持つ伝統的な美を感受し表現方法を工夫している。	○	○	○	25
	・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	臨書 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭義下碑 硬筆 文部科学省3級検定過去問題	【知】基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を把握している。 【思】漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形・全体の構成を工夫している。 【学】自己の表現のねらいを達成する為に、古典の持つ伝統的な美を感受し表現方法を工夫している。	○	○	○	
3 学期	・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関りについて理解している。	仮名・いろは歌 いろは歌前半・後半・全体	【知】仮名の書に対する感性を養い、意図に基づいて字形や線質を工夫している。 【思】古典の学習により、仮名の表現の基本的な用筆・運筆の技法を身につけ、表現を工夫している。 【学】名筆を通して、単語・連綿等全体の構成など、日本の伝統的な書の美を感受している。	○	○	○	20
	・基本的な技能を身に付け表現している。	作品集制作・返却 一年を通しての感想	【知】書が生活の中で果たしている役割を理解し、書を社会生活の中で生かそうとしている。 【思】書に対する関心を持ち、美しいと感じたり、楽しいと思えるような書の発見に心がけている。 【学】書の美に対する第一印象を大切にし、自分の感じ方や好みを発表することえを身に付けている。	○	○	○	
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和6度 教科 産業 科目 課題研究 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 課題研究 単位数 : 3単位

対象学年組 : 第3学年 1組 (ものづくり選択) (

教科担当者名 : (,)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (皮革用機器、ガスバーナーなどガラス工芸機器)

目 標 : 刃物や高温のガスバーナーを使用するため、安全に作業をすすめられる。
伝統工芸について興味・関心を持ち、作業手順を考え、他者と協働して取り組めること。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
各作業の準備、片付けや基本的な知識・技術の習得をするとともに、各種操作方法等の理解を深め、最後まで諦めずに作品を製作できる力を身に付ける。		各作業の作品製作にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、工芸作品に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身に付けている。		各作業で作品製作に興味・関心を持ち、産業技術基礎の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
前期 ・皮革工芸 【知】皮革の基本的知識を身に付ける。 【思】裁縫に慣れる。 【態】理解を深める。	(皮革工芸) ・機器の準備、片付け ・裁縫 ・型抜き	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	105/2	
後期 ・ガラス工芸 【知】ガラスの基本知識を習得する。 【思】安全な基礎作業を習得する。 【態】丁寧な作業で作品を製作し、準備・片付けなどを協力して行う。	(ガラス工芸) ・道具の準備、片付け ・安全基本作業 ・器具の取り扱い ・作品の保温	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	105/2	
配 当 合 計 時 間						105	

1年間を前期・後期に分け、生徒も2班にわけてローテーションさせて革工芸・ガラス工芸の実習を行う。

橘高等学校定時制 令和06年度 教科 産業 科目 産業実習 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 産業実習 単位数 : 2 単位
 対象学年組 : 第3 学年 1 組 (ものづくり選択)
 教科担当者名 : ()
 使用教科書 : (なし、補助プリント使用)
 使用教材 : (作業用品)
 目 標 : 作業について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
各作業の準備、片付けや基本的な知識・技術の習得をするとともに、各種操作方法等の理解を深め、最後まで諦めずに作品を製作できる力を身に付ける。		各作業の作品製作にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、産業技術基礎に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身に付けている。		各作業で作品製作に興味・関心を持ち、産業技術基礎の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1 学期 グラフィックデザインの基本アプリケーションソフト基礎 ・ソフトの使い方、使い分け	デザイン基礎	基本アプリケーションソフトの基礎的な操作が分かる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25	
2 学期 グラフィックデザインの基本アプリケーションソフトを用いて作品制作	デザイン応用	基本アプリケーションソフトを用いてオリジナル作品の制作ができる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25	
3 学期 グラフィックデザインの基本技術を用いて作品制作	デザイン応用	サンドブラスターやレーザー加工機などを用いて作品制作ができる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	20	
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和6年度 教科 産業 科目 情報基礎 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 情報基礎 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組 (ものづくり選択)

教科担当者名 : () .

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (補助プリント)

目 標 : PC操作について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
各作業の準備、片付けや基本的な知識・技術の習得をするとともに、各種操作方法等の理解を深め、最後まで諦めずに作品を製作できる力を身に付ける。		各作業の作品製作にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、産業技術基礎に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身に付けている。		各作業で作品製作に興味・関心を持ち、産業技術基礎の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1学期 PCの基本操作を理解する 検定の合格レベルを目指し練習する。	①タイピング練習 情報処理技能検定 日本語ワープロ4級～3級程度	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25	
2学期 PCの基本操作を理解する 検定の合格レベルを目指し練習する。	文書デザイン 4級～3級程度 表計算 4級～3級程度	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25	
3学期 PCの基本操作を理解する 検定の合格レベルを目指し練習する。	プレゼンテーション 4級～3級程度	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【態】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	20	
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和6年度 教科 産業 科目 課題研究 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 課題研究 単位数 : 3単位

対象学年組 : 第3学年 1組 (ビジネス選択)

教科担当者名 : ()

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (自己作成プリント)

科目 課題研究 の目標 : 自ら課題を見つけ出し、探求し経済の仕組みの理解と仕組みを理解する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
ビジネスの基本知識を身に着け、自ら課題を探求し、解決する能力を備える。		知識を活用しながら理解する力を身に着けている。		主体的に学習に取り組もうとしている。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学 期	経済的課題を探し出す。	経済の仕組みについて基礎的な仕組みを指導する。	【知】 経済の仕組みについて概要や要点を捉える技能を身に付けている。	○		○	6
	課題の担い手について理解する。	課題の担い手について重要性を理解している。	【態】 課題の担い手について正しく理解しようとしている。				18
	能動的にとらえる能力を身につける。	課題を探求することについてその概要を理解させる。					16
2 学 期	課題の意味や目的を理解し、要点をとらえる技能を身につける。	課題探求の必要性について理解させる。	【知】 課題の意味を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	18
	課題解決の方法を考え出し、それを理解する力を身につける。	問題解決の必要性について理解させる。	【思】 実際の行動を用いて、提示されたものから、企業の課題を理解できる。 【態】 事例から企業の問題点を理解しようとする。				24
3 学 期	課題が解決することにより、企業が再生することを理解させる。	個人企業におけるビジネスの課題を見つけ出せるようにする。	【知】 課題を理解し、意味や要点を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	11
			【思】 課題解決の方策を体系的に思考することができる。 【態】 企業の財政状態及び経営成績からその企業の課題を探求できるようにする。				12
配 当 合 計 時 間							105

橘高等学校定時制 令和6年度 教科 産業 科目 ビジネス経営 年間授業計画

教 科： 産業 科目： ビジネス会計 単位数： 2単位

対象学年組： 第3学年 1組 (ビジネス選択)

教科担当者名： ()

使用教科書： (なし)

使用教材： 自己作成プリント

目 標： 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をおこなうことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・経済活動と取引、簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身につけている。		・適確に判断し諸帳簿に記帳することができる。 ・簿記の目的である財政状態と経営成績を明らかにすることなどについて、知識を活用しながら理解する力を身につけている。		・主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学 期	簿記の意味や目的を理解し、要点をとらえる技能を身につけさせる。 取引を適切に記帳できる力を身につけさせる。 決算に関する基礎的な知識や、一連の決算の流れについて理解させる。	簿記の必要性について理解させる。 専門的な取引の仕訳ができるようになる。 総勘定元帳・補助簿への転記、記入をできるようにする。 決算の仕組みを理解し精算表まで完全に記帳できるようにする。	【知】基礎的な知識を身に付け、簿記を学ぶことの必要性や重要性について理解している。 【思】取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続の基本的な流れについて理解し記帳している。 【態】簿記の必要性や重要性を理解したうえで、簿記の学習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6 18 16
	各種取引の種類とそのしくみを理解し、適切に記帳できる力を身に付けさせる。 手形、債権・債務、有価証券、固定資産 他 精算表について理解し記帳できる力を身につけさせる。	生徒各自に模擬手形、小切手の記入と発行を体験させることにより、学習を深めさせる。 決算整理事項を理解し、繰り返し学習により仕訳が適切に出来るようになる。 上記をもとに、精算表に記帳し完成させることができるようにする。	【知】各取引の意味とその種類について理解している。 【思】各取引から思考し適切に判断した記帳方法を用いることができる。また、各種帳簿を用いて、基本的な企業の財政状態及び経営成績を把握できている。 【態】練習問題に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	18 24
	全国経理学校協会簿記実務検定2級レベルの問題を解き、実践的な簿記の力を身につけさせる。	演習問題を解き、振り返りにより苦手を克服する力を身につけさせる。 これまでの学習を総合的に理解させ、達成体験も得られるようにする。	【知】演習問題を理解し、意味や要点を捉える技能を身につけている。 【思】演習問題を正確に解き、さらに諸帳簿の作成を体系的に思考することができる。 【態】各種帳簿や資料を用いて、企業の財政状態及び経営成績を把握しようとしている。	○	○	○	11 12
配 当 合 計 時 間						105	

橘高等学校定時制 令和6度 教科 産業 科目 情報演習 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 情報演習 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組 (ビジネス選択)

教科担当者名 : ()

使用教科書 : なし

使用教材 : 自作プリント等

科目 情報演習 の目標 : 産業科として、多様なビジネスシーンに役立つ情報の収集、処理、分析、表現と活用について考え、理解させる。
また、具体的にアプリケーションソフトやプログラミング言語などを使いそれらを実務的に行う技術や力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・ビジネスシーンに応じた情報の収集、処理、分析、表現を行うことができる知識や技術を身につけさせる。		・ビジネスに関する情報を論理的に考えさせる ・収集した情報を必要に応じて活用し、的確に判断して表現できるようにする。		・主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・他者の意見をよく聞くことができるようにする。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	情報の収集とデータベース化や分析の意義や種類について理解する。 課題に則して情報を収集し、それらをもとに適確な資料を作成したり、プレゼンテーションしたりする力を身につける。	・指導項目 課題に則した情報の収集と表現 ・教材 自作プリント プレゼンテーションソフト (POWERPOINT) 表計算ソフト (EXCEL) ・一人1台端末の活用 (Teams Forms など)	【知】・プレゼンテーションの意義や基礎について理解しソフトウェアを利用できている。情報の収集と分析の意義、種類について理解している。・データとデータベースの基礎知識を理解している。・表計算ソフトウェアの基本的な使い方ができる 【思】・場面に応じたプレゼンテーションソフトでの作成ができる。・場面に応じたプレゼンテーションソフトウェアでの表現ができる。・基本的な関数の利用やグラフ作成ができています。 【態】・場面に応じて、積極的に考えることができる。・自分の意見を他者に的確に伝えようとしている。・他者の意見や発表をよく聞こうとしている。・課題に対して具体的に考え、理解しようと取り組んでいる。・場面に對して、関心を持ち積極的に取り組んでいる。・協働的な学習を通じ、課題を解決しようと取り組んでいる。	○	○	○	8 16
2 学期	企業活動と情報処理について理解し、情報モラルや法規、個人情報や知的財産の保護についても理解する。 課題に則して情報を収集し、それらをもとに更に適確な資料を作成することによりビジネスシーンに役立てる力をつける。	・指導項目 企業活動の現状と関連するモラルや法規 ・教材 自作プリント ネット教材 (関連するサイトや公開されている検定過去問題など) 表計算ソフト (EXCEL) ・一人1台端末の活用 (Teams Forms など)	【知】・情報の意義と役割について理解している。・情報社会とモラル、法規について理解している。・個人情報や知的財産の保護について理解している。・表計算ソフトウェアの応用的な使い方ができる。 【思】・情報社会と法規について、身近な問題を具体的に考え、判断することができる。応用的な関数や応用的なグラフ作成について理解し利用できている。・演習問題を解き、意味や要点を適確にとらえ、体系的に思考し解答することができる。 ・個人情報や知的財産の保護について具体例により考え、判断することができる。 【態】課題に対して具体的に考え、理解しようと積極的に取り組もうとしている。・協働的な学習を通じ、課題を解決しようと取り組んでいる。	○	○	○	12 16
3 学期	アルゴリズムとプログラミングについて基礎知識を理解する。	・指導項目 プログラミングと表現 ・教材 自作プリント (JavaScript microbit など)	【知】アルゴリズムとプログラミングについて基礎知識を理解している 【思】基本的なプログラミング言語について理解し利用できている。 【態】基本的なプログラミング言語について理解しようとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70